

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●吉田豊騎手がJRA通算1万6000回騎乗を達成

1月18日(土)の1回中山6日・第8レースでフレンドアリスに騎乗した吉田豊騎手(美浦・フリー)は、この騎乗で史上12人目、現役10人目となるJRA通算1万6000回騎乗を達成しました。

●柴田大知騎手がJRA通算1万回騎乗を達成

1月19日(日)の1回小倉2日・第2レースでスマートスリロ스에騎乗した柴田大知騎手(美浦・フリー)は、この騎乗で史上41人目、現役28人目となるJRA通算1万回騎乗を達成しました。

●堀宣行調教師がJRA通算600勝を達成

1月19日(日)の1回中山7日・第6レースではルフトシュトロームが1着となり、同馬を管理する堀宣行調教師(美浦)は、史上94人目、現役では16人目となるJRA通算600勝(延べ3745頭目)を達成しました。

●リスグラシューらの競走馬登録抹消

2019年に宝塚記念(G I)、コックスプレート(豪G I)、有馬記念(G I)を制して同年のJRA賞年度代表馬に選ばれたリスグラシュー(牝6歳/栗東・矢作芳人厩舎/JRA通算19戦6勝・海外3戦1勝)のほか、2015年日刊スポーツ賞シンザン記念(G III)の勝ち馬グアンチャーレ(牡8歳/栗東・北出成人厩舎/JRA通算42戦5勝)、2017年新潟記念(G III)などの勝ち馬タツゴウゲキ(牡8歳/栗東・鯨島一步厩舎/JRA通算21戦5勝)、2017年関西テレビ放送賞ローズS(G II)などの勝ち馬ラビットラン(牝6歳/栗東・角居勝彦厩舎/JRA通算13戦3勝・地方4戦1勝)は、1月22日(水)までに競走馬登録を抹消されました。リスグラシューは北海道安平町のノーザンファームで繁殖馬、グアンチャーレは北海道浦河町のイーストスタッドで種牡馬となり、タツゴウゲキも種牡馬となる予定ですが繋養先は未定。ラビットランは地方・船橋競馬に移籍する予定です。また、2017年サマーチャンピオン(佐賀・Jpn III)の勝ち馬ラインシユナイダー(牡8歳/栗東・松永昌博厩舎/JRA通算41戦5勝・地方2戦1勝)は調教中に急性心不全を発症して死亡、2018年デイリー杯クイーンC(G III)の勝ち馬テトラドラクマ(牝5歳/美浦・小西一男厩舎/JRA通算11戦3勝)は放牧中の事故で予後不良となり、いずれも競走馬登録を抹消されました。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●TCK女王盃(大井)でマドラステックが重賞初制覇

TCK女王盃(Jpn III、1月22日、大井、1800m)は、3番手から直線に入って間もなく先頭に立った5番人気のマドラステック(森泰斗騎手=船橋、牝4歳、父マリブムーン)が、2番人気のアンドスクイーンとの競り合いをハナ差で制しました。3番人気のメモリーコウが3着に入り、1番人気に推されたファッションISTAは4着、トーセングーネットは6着に敗れています。

●全日本新人王争覇戦(高知)はJRAの岩田望来騎手が優勝

1月21日に高知で2レースのポイント制で争われた全日本新人王争覇戦は、2、2着の岩田望来騎手(栗東)と1、4着の西村淳也騎手(栗東)が同ポイントで並び、第2戦の成績上位を総合成績の上位とする規定により、岩田望来騎手が総合優勝となりました。斎藤新騎手(栗東)は4、7着で第6位でした。

●金杯(水沢)はシンボが人気に応える【各地の主要3歳重賞】

金杯(1月2日、水沢、1600m)は、2番手から向正面半ばで先頭に立った北海道からの移籍馬シンボ(牡、父ペーカバド)が直線の競り合いをクビ差で制し、単勝1.4倍の支持に応えています。

●1月29日の川崎記念はケイティブレイブ対チュウワウイザード

川崎記念(Jpn I、1月29日、川崎、2100m)は、一昨年の優勝馬ケイティブレイブとチュウワウイザードが双壁、以下デルマルール、昨年の覇者ミツバ、アナザートゥルース、オールブラッシュ(大井)、メイプルブラザーまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●G1 スチュワーズC~ワイククがG1初制覇

1月19日に香港のシャティン競馬場で行われたG1 スチュワーズC(3歳上、芝1600m)は1番人気に推されたワイクク(騾5歳、父ハーバーウォッチ)が7頭立ての最後方から鮮やかな差し切り勝ちを収めました。連覇を狙ったビューティージェネレーションは逃げてクビ差の2着でした。勝ったワイククは昨年11月のG2 ジョッキークラブマイル(芝1600m)で重賞初制覇。続く前走12月のG1 香港マイルはアドマイヤマーズの2着でした。

●G1 センテナリースプリントC~ビートザクロックが連覇達成

G1 スチュワーズCの2レース後に行われたG1 センテナリースプリントC(3歳上、芝1200m)は、7頭立ての6番手を追走した1番人気のビートザクロック(騾6歳、父ヒンチンブルック)が逃げたサンクスフォーエバーをアタマ差交わして優勝。このレース連覇を果たしました。ビートザクロックは昨年4月のG1 チェアマズスプリントプライズ(芝1200m)と12月の前走G1 香港スプリント(芝1200m)も制しており、G1は4勝目です。なお、鞍上のJ. モレイラ騎手と管理するJ. サイズ調教師はワイククでG1 スチュワーズCも勝利し、この日の2つのG1をともに制しました。